

CONTENTS

『新尾道市史 資料編 近世』の概要	・・・ 1 頁
史料紹介コーナー	・・・ 2 - 4 頁
文化財講座II 近世港町尾道の町政	・・・ 5 頁
『新尾道市史』の購入方法	・・・ 6 頁



富籤興行図（尾道市立中央図書館蔵）

『新尾道市史』全11巻のうち2巻目となる「資料編 近世」を発売しました。

日本遺産に認定された港町尾道の骨格をつくり、北前船に象徴される諸国廻船の往来によって町が大きく発展を遂げた時代こそ、まさに近世という時代でした。

このたびの『新尾道市史』では、平成の大合併を踏まえつつ、旧尾道町や農山村・島嶼部のさまざまな分野に関する新出資料を数多く収録しました。

収録資料は多岐にわたりますが、まず、江戸時代（福島時代）初期の尾道の様子を記した文書にはじまり、尾道湊の中枢である住吉浜などの造成整備や尾道町をめぐる行政・宿駅機能に関する文書を収録しました。続いて、御調郡を中心とする農山村や向島を中心とする島嶼部の動向、災害に関する文書などを収録しています。

中盤で多くの頁を占める第9章では、近世の尾道経済を特色づけるさまざまな産業（石材加工・酒・酢・塩・鍛冶・畳表など）や商業・金融関係の文書を収録しました。また、尾道と北前船との絆を示す仕切状や、因島棕浦廻船の活動を記した書簡、尾道商人による雲州（松江藩）廻米御用の記録など、新出資料を多数紹介しています。

終盤の第10章以降では、数多く存在する神社に関する文書のほか、尾道商人に影響を与えた心学に関する文書や日記・紀行文・漢詩などの作品、尾道町の年中行事や芝居興行、寺社への奉納に関する文書を収録しました。また、異国船防備や長州戦争、諸隊など、幕末維新の政情に関する文書も数多く収録しています。

なお、本巻では、内容のバランスを意識しつつ資料の選定に努めました。が、尾道地域の近世を語る上で必要なテーマでありながら本巻に盛り込めていないものもあると思います。それらについては、今後予定している通史編で、できる限り取り上げたいと考えています。

（近世専門部会長、広島県立文書館・西向宏介）

『新尾道市史 資料編 近世』史料紹介コーナー

今回は、安政五年（1858）に流行したコレラへの対処に関する史料をご紹介します。資料の翻刻文（くずし字で書かれている古文書を活字化した文章のこと）と現代語訳を掲載します。

コレラは文政五年（1822）、安政五年・六年（1858・59）、文久二年（1862）の3回に渡り発生しました。安政五年のコレラは清国で感染したアメリカの軍艦の乗組員が長崎に上陸したことから全国的に流行したものです。広島藩では七月頃から流行しはじめ多数の死者を出しましたが、尾道町の罹病者数などは不明です。

当時の尾道町民がどのようにコレラに対処したかを紐解いていきたいと思います。

二二 コレラ流行につき対処一件 安政五年（1858）九月 広島県立文書館・青木茂氏「諸控」（嘉永七年）

（第8章 凶作・飢饉と災害）

【翻刻】

先頃已来世上流行病ニ而死亡之者多有之趣
二付、諸人為安全

敵島社ニおゐて御祈禱被

仰付、御祈禱済左之通御札被下候事

尾道 但シ、一町へ御札壹枚宛被下、寺社・堂内ニ籠候事

尾道役所へも御札相渡し候事

御札者於御勘定所相渡候事

但、忌服有之者ハ何れへ成りとも相願受取候事

右之趣可被相達候

（中略）

【現代語訳】

先ごろ以来、世上に流行の病で死に失せる者が多いため、諸人の安全を敵島神社において、祈禱するよう仰せ付けられた。ご祈禱を済ませ、左のとおり、お札をくだされることとなった。

尾道 但し、一つの町へ、お札一枚ずつくだされ、寺社の堂内に納めることとする。

尾道役所へもお札を渡すこととする。

お札は御勘定所において渡すこととする。

但し、町内の忌服（きふく）の者は、どちらにおいてもお願いすれば、お札を受けとれることとする。

右のとおり通達されることとなった。

（中略）

【翻刻】

此節惡病流行ニ付療養筋之義ニ付、

別帯之通り公儀被仰出候処、御書面之

趣も有之、こなれかたく食物用捨之義等

厚き御趣意者一統得相心得、別而

飲食之義者心を相用魚類之内ニ而も

性合不宜品者堅ク用捨有之、忽緒之義

無之様此旨寺社町中へ可申附候事

午九月十四日

町御奉行所

【現代語訳】

このごろ、悪い病が流行っていることについて、その療養方法について、別紙のとおり、公儀（幕府）から通達が出されたところ、書面の内容によれば、消化が悪い食べものを用捨するよつにとの厚いお考えであるから、みんなしっかりとこころがけなさい。とくに飲食の方法については用心して魚類の中でも相性がよくないものは固く用捨しなさい。おそろかにすることが無いよう、この旨を、寺院や神社、町中へ申し付けるように。

午九月十四日

町御奉行所

此節流行之暴瀉病者其療次かた

種々有趣キニ候得共、其中素人心得へき法

示ス、預しめ是ヲ防ぐに者都而身ヲ冷ス

事なく、腹に者木綿まき大酒大食慎み、其外こなれ難き食物ヲ一切給申

間敷候、もし此症催し候得者早ク寐床ニ入

飲食ヲ慎惣身温め、左に記ス芳香散

といふ薬ヲ用ゆべし、是のミニして治するもの

少なからず、吐瀉甚しく惣身冷る程ニ

至り候もの者、焼酎壹式合の中ニ龍腦又者樟

腦壹式勿ヲ入、あたゝめて木綿の切ニひたしてハ

腹并手足江静にすり込ミ、からし泥を心下

腹并手足江小半時位宛度々張るへし

このごろ流行りの激しい下痢について、治療法は種々あるが、その中でも素人が心得るべき方法を示します。あらかじめ、これを、防ぐには、総じて身体を冷やすことなく、腹に木綿を巻き、暴飲・暴食を慎み、その他消化がしにくい食べものをいっさい、食すべきではありません。もし、この症状が、現れたなら、早く寝ることはいり、飲食をつつしめ、全身を温め、左に書き記した「芳香散」という薬を用いなさい。これを飲んだだけで治る者も少なくありません。嘔吐下痢が著しく全身が冷えてしまったものは、焼酎一、二合の中に「龍腦」または、「樟腦」一、二匁（3・75グラムく7・5グラム）を入れ、温めて木綿の布切れに浸しては、腹ならびに手足へ静かにすりこみ、「からし泥」を心臓より下腹に、また、手足へ小半時（約三十分）ずつたびたび貼りなさい。

【翻刻】

芳香散

上品

桂枝 細末 益智 乾姜

右調合致し壺式分宛時々用ゆへし

芥子泥

からし粉 鰯鮎粉 等分

右あつき醋にて堅くねり、木綿切にのほし張り候事、但、間に合さる時
者あつき湯にて芥子粉ばかりねり候てもよろし

又法

あつき茶等にて三分一焼酎を和し砂糖を少し加へ用へし、但、座敷を開
布木綿等に焼酎をつけ頻りに惣身をこするへし

但、手足の先き并腹冷へる所を温鉄、又温石を布につかみて湯をつか
ひたる如き心持になる程こするも又よろし

右署此節流行病甚しく諸人難儀候二付、其症に拘ハらず早速用ひて害な
き薬法、諸人為心得無急度相達候事

八月

右之通被仰出候二付差廻し申候、順々御廻し詰より私方江御送戻可被成
候、已上

九月

亀山元助

【現代語訳】

芳香散

上品（品質の良いもの）

桂枝（ケイシ）乾燥した肉桂 粉末 益智（ヤクチ） 乾姜（カ

ンキョウ）乾燥した生姜

右を調合し、一、二分ずつ時々用いなさい。

芥子泥

からし粉 うどん粉 等分

右を熱い醋（サク・酢）で固く練り、木綿の布切れに伸ばして貼りなさい。
但し、間に合わない場合には、熱い湯で、芥子粉のみ練ってもよろしい。

また用法

熱いお茶などで、三分の一の焼酎を混ぜ合わせ、砂糖を少し加えて用い
なさい。但し、座敷を開めて、木綿布等に焼酎をつけ、しきりに全身を
こすりなさい。

但し、手足の先や冷えたお腹に、温鉄（あたためた金物）または、
温石（あたためた石）を布にくるんで、お湯につかったような心地
になるくらいこするのでもまたよろしい。

右は、このごろ流行りがはなはだしく、多くの人が苦しんでいるため、
その症状に関わらず、すぐに用いて害がない薬法である。多くの人に心
得として、しっかり通達しておくように。

八月

右のとおり、仰せ付けられたので、差し回すこととする。順々に差し回し、
私の方へ送り戻すように。以上。

九月

亀山元助

文化財講座Ⅱ

近世港町尾道の町政

令和5年（2023）2月24日（金）、しまなみ交流館大会議室で、尾道
市史編集委員長の中山富廣先生（広島大学名誉教授）をお招きして、文化財
講座を行いました。

テーマは、「近世港町尾道の町政」です。このたび刊行しました『新尾道
市史 資料編 近世』の中にも掲載している史料から、当時の尾道町の様相
についてお話を伺うことができました。なかでも、尾道町の自治組織につい
て、史料を交えて詳しくお話を頂きました。

元和3年（1617）の「申定一札之事」という史料には、自治組織を仕
切る「年寄」が5人、月行司が60人設けられ、月行司5人が年寄の指導のも
と月々の御用を勤めていたこと、談合や寄合と呼ばれる会議を開き話し合い
をしながら役目を勤めていたこと、御奉行や下役へ断りを言うときには容赦
なく言うことができたことなどが記され、町人たちの自治組織がまちの繁栄
と治安維持に関わっていたことを話されました。意外にも、火事や盗難といっ
たことが記録に残っていないことなどから災害が少なかったのではなからう
かと話されていました。

中山富廣（なかやまとみひろ） 昭和31年（1956）生、長崎県出身。広島大学名誉教授。

近世日本の村落社会を対象に社会経済史的研究を行う。対象フィールドは瀬戸内海地域。とくに農村社会の生産活動・民富の存在形態などを通して、
江戸時代とはどんな時代であったのかについて取り組んでいる。代表的な著書は『近世の経済発展と地方社会』（清文堂、2005年）



講演の様子

『新尾道市史 資料編 近世』購入方法!

A5版(830頁) 頒布価格:3,000円(税込・送料実費)
送料は実費負担です。お申し込み先にご確認ください。

○販売先

尾道市文化振興課/尾道市史編さん委員会事務局

○お申し込み・お問い合わせ先

尾道市史編さん委員会事務局(企画財政部文化振興課内)

〒722-0022尾道市栗原町1268-1(旧尾道高校本館)

TEL(0848)38-9359(直通) FAX(0848)24-2131(直通)

※お電話での受付時間は平日8時30分~17時

○お支払方法

尾道市発行の納付書でお支払いいただけます。

(ゆうちょ銀行以外の尾道市内に本支店のある金融機関で取り扱っています)



『新尾道市史』刊行計画

市制施行一二〇周年にあたる平成三十年度(二〇一八)を振り出しに、令和十年度(二〇二八)までの十一年計画で、新市域を網羅しての『新尾道市史』を編さんします。今後の刊行スケジュールは次の通りです。

令和五年度(二〇二三)

文化財編 下巻

資料編 考古・古代・中世

民俗編

資料編 近代・現代

令和六年度(二〇二四)

地理編

令和七年度(二〇二五)

通史編 原始・古代・中世

令和八年度(二〇二六)

通史編 近世

令和九年度(二〇二七)

通史編 近代

令和十年度(二〇二八)

通史編 現代

史資料や情報をお寄せください

古文書や古写真(写真絵葉書を含む)、古地図、尾道の話題を報じる古新聞など、市史編さん委員会事務局では、幅広い分野において尾道に関わる史資料を収集しています。また、無形の伝承(地域に伝わる言い伝えや独特な慣習、祭礼芸能等)についても収集対象となります。もし皆さんの自宅や周辺で、あるいは地域で、そうしたものが発見された場合は、事務局へご一報ください。史資料については複製(写真撮影・コピー)を取らせていただくのみで、現物については速やかにお返しさせていただきます。情報提供は下記の事務局連絡先までお願いします。お電話での受付時間は平日8:30~17:00です。(文化財係:0848-20-7425)

編集後記 * 2023.4

花便りも伝わる今日この頃、皆さんお変わりございませんか。さて、今回は昨年11月に発行した『新尾道市史 資料編 近世』の内容を少しだけご紹介いたしました。同資料編は旧市町史にない新出資料を積極的に収録した他、平成の大合併を経て新市域となった地域の資料、幅広い分野(政治・経済・社会・生活文化・宗教)にわたる資料を掲載しています。是非お手にとってみてくださいね。(I.M.)

※『市史広報』は年に2回程度の発行を予定しております。
みなさんの様々なお声や情報をお待ちしております。